

国宝『縄文の女神』出張展示歴

1995年	うきたむ風土記の丘考古資料館 「よみがえる縄文文化」 山形県立博物館ほか全国巡回 「新発見考古速報展」 東京国立博物館 「新指定文化財展」
1998年	日本文化会館（フランス） 海外展「縄文展」
2000年	東北歴史博物館（宮城県） 「縄文時代の日本列島ー自然との共生ー」
2001年	上海博物館（中国） 海外展「日本文物精華展」
2002年	福島県立美術館 「東北の美ー縄文から現代までー」
2004年	郡山市立美術館（福島県） 「原始美術の華 縄文土器の造形展」 ライス・エンゲルホルン博物館（ドイツ） マルティン・グロピウス・パウ（ドイツ） 「曙光の時代ー日本原始・古代展覧会ー」
2005年	奈良国立博物館 「日本の考古ー曙光の時代ー」
2006年	倉吉博物館 「土偶の美」
2009年	大英博物館（イギリス） 「Power of Dogu」 東京国立博物館 「国宝 土偶展」
2012年	東京国立博物館 「新指定文化財展」 ミホ・ミュージアム（滋賀県） 「土偶・コスモス」
2014年	東京国立博物館 「国宝展ー信仰のかたちー」
2016年	東京国立博物館 特別公開「国宝土偶 縄文の女神」
2017年	京都国立博物館 京都国立博物館会館120周年記念 特別展覧会「国宝」
2018年	東京国立博物館 「縄文の美」 日本文化会館（フランス） 「ジャポニズム2018」
2019年	三内丸山遺跡センター（青森県） 夏期特別展「あおもり土偶展」 長野県立歴史館 長野県立歴史館開館25周年記念 特別展示企画展「国宝土偶in信州」



国宝「縄文の女神」特徴

年代	縄文時代中期 (約4,500年前)
高さ	約45cm
肩幅	約17cm
腰厚	約7cm
股下脚長	約15cm
重さ	3.155kg(復元重量)



国宝「縄文の女神」

出土30周年・国宝指定10周年

今年で国宝「縄文の女神」が出土されてから30年、国宝指定10周年の節目を迎えます。

平成4年8月に西ノ前遺跡から発掘された縄文の女神は、縄文時代中期（約4,500年前）に作られたものと言われ、平成10年に国の重要文化財に指定されました。

当時、国道13号尾花沢新庄道路建設工事が具体化したことを受け、昭和61年10月に山形県教育委員会が行なった遺跡詳細分布調査によって、「西ノ前遺跡」が発見されました。道路の計画が進むにつれて、路線が遺跡にかかる可能性が出てきたため、平成3年に試掘調査が、平成4年には発掘調査（本調査）が行われ、8月上旬の3日間で縄文の女神の頭部、胸部、腰部、脚部2片の合計5片に分かれて見つかりました。他にも、土偶残欠47点が発見され、国宝「附（つきたり）」（※）として指定されています。

その後、縄文の女神は、平成8年に県の重要文化財に、平成10年に国の重要文化財に指定され、そして、平成24年9月に、ついに国宝に指定されました。文化審議会からは「縄文時代の土偶造形のひとつの到達点を示す優品として代表的な資料であり、学術的価値が極めて高い」と高く評されました。以降今日にいたるまで、フランス、中国、ドイツ、イギリスなど世界各国で展示され、高い注目を集めています。

町では、国宝指定を記念して、平成25年に、毎年8月4日を「縄文の女神の日」として条令で定めています。

※国宝「附（つきたり）」
建造物、美術工芸品、考古資料、歴史資料などを重要文化財や都道府県指定文化財などに指定する際に、文化財本体に関連する物品や資料を本体と併せて文化財指定すること。



開催予定のイベント

縄文の女神まつり2022

今年は、記念イベントとして、8月6・7日（土・日）に「縄文の女神まつり2022」を中央公民館で開催を予定しています。触れる国宝「縄文の女神」レプリカのほか、触れる火焔型土器などのレプリカを館内に展示します。また、縄文文化に関する講演会や土器づくりの体験など縄文に親しむイベントを行います。

▼問い合わせ／舟形町教育委員会
☎（32）2246

縄文炎祭2022

平成30年度に終焉となった「縄文炎祭」が、8月6日夕方から『縄文の女神』の出土30年と国宝指定10周年を記念した特別イベントとして復刻開催を予定しています。イベントの詳細については、後日町ホームページやチラシで案内します。

▼問い合わせ／縄文炎祭実行委員会
☎（32）2246